

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	外国語 2	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	全コース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	教科書「Campus English」				
担当教員情報					
担当教員	櫛田 Kyla		実務経験の有無・職種	有・英会話講師	
学習目的					
既に国際化した日本において世界各国の有名アーティストをインバウンドすることは容易になり、日本の音楽業界も10年前に比べ国際化している。本科の学生に於いても国際的アーティストを招いた音楽フェスなどに従事する機会が多くあり、その場において英語に対する関心が深くなることは間違いないと思われる。この講義では基本的な会話を養うべく簡単な英語を用いた対話型の授業を展開し、英語を学ぶ難しさを払しょくし、自学でも英語を学ぶ機会を自発的に得ようとする気持ちを誘発できるよう、英語の楽しさを伝えていく。常に担当する講師以外の外国人を講義に招き、初対面の外国人相手にしても英語を用いて話すことができるよう、英語での会話を身に付けていく。					
到達目標					
教科書を使用するが、使用方法としては会話分の参考にする程度であり、英語で会話することを軸に講義を展開していく。ただ単語を覚える、文法を覚えるといった中学校・高等学校で経験した英語の授業とは違い、英単語に隠されたたくさんの意味をニュアンスから理解できるよう、より実践的に会話ができるように講義を展開していく。英会話の「この部分を押さえておけば会話に支障がない」というレベルを理解することで、プライベートで外国人に出会っても、道案内などを分かり易く正しくできるようになるので、その点を抑えながら授業を行う。来るオリンピックによる国際化の波に乗り、グローバルに活躍できるスタッフを育成することがこの講義の到達目標である。					
教育方法等					
授業概要	教科書「Campus English」を元に、基本的な英会話を習得する。英語で話すことに抵抗を失くすことで、外国人とのコミュニケーション意欲が増すと考える。教科書を進めることだけでなく、時に講師以外の外国人と英語を用いて会話し、自分の英語力を試すと共に、より一層の勉学意欲を誘発する。グループワークを通じてこれまで固定されていた英文の活用方法を払しょくして、より実践的に活用できる英会話を身に付けていく。講義は外国人講師主導で行われ、日本語を極力少なくして展開する。				
注意点	この講義では積極的に話すことが大切であり、学生が消極的になってしまうと講義の成果が得られなくなってしまう。そのため全課程においてティームティーチング制を導入し、講師陣が学生に英語で会話することを促していく。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	It is a celebration for kids.		選択肢の中から好みを聞く練習をする		
2回	What is your favorite dish at the cafeteria?		今日は何を食べたい？という質問の会話文を読み、練習する		
3回	What is Christmas like in your coutry?		クリスマスがどんな意味をもつ日なのかを英語で説明する練習をする		
4回	Your e-mail is full of garbled text.		メールで見かける略語の意味が分からない時の質問を練習する		
5回	I'd like to talk about my research.		研究のテーマの話し方の練習をする		
6回	That's why I applied for the position.		面接官になって採用したい理由を述べる練習をする		
7回	Who's your date?		例題の会話文をペアワークで読み、練習する		
8回	Why don't we plan a farewell party?		Thing to goを用いて、協力を求めて具体的な内容を伝える練習をする		
9回	I have set three goals for myself.		目標を聞かれて具体的に話す練習をする		
10回	Pair Work (1)		これまで学んだ文法を用いて、会話文を作成する		
11回	Pair Work (2)		これまで学んだ文法を用いて、ペアで会話を練習する		
12回	Pair Work (3)		外国人相手でも英語で話せるように、ペアで会話を練習する		
13回	Pair Work (4)		外国人相手に英語で話し、外国人とペアワークを行う		
14回	まとめ（1）		後期に学んだことのまとめ		
15回	まとめ（2）		1年間を通しての会話文に関するまとめ		